

「九州・長崎特定複合観光施設区域整備計画素案」に対する意見公募の結果について

【意見募集要領】

1 募集期間

令和3年12月21日（火） から 令和4年1月17日（月） （28日間）

2 募集方法

郵送、ファクシミリ、電子申請

3 閲覧方法

県ホームページに掲載、長崎県IR推進課・県政情報コーナー（県庁県民センター内）、各振興局行政資料コーナー（五島振興局上五島支所を含み、長崎振興局を除く）

4 意見件数

9件

5 意見の反映状況

対応区分	対応内容	件数
A	・案に修正を加え反映させたもの	0
B	・案に既に盛り込まれているもの ・案の考え方や姿勢に合致し、今後、具体的な施策を遂行する中で反映していくもの	5
C	・今後検討していくもの	0
D	・反映が困難なもの	0
E	・その他	4
	合計	9

※区域整備計画素案に対する意見公募のため、計画素案の内容以外の意見等については、意見の反映状況に計上しておりません。何卒ご了承ください。

6 提出されたご意見の要旨及び意見に対する考え方

区分B：案に既に盛り込まれているもの、案の考え方や姿勢に合致し、今後、具体的な施策を遂行する中で反映していくもの 5件

#	ご意見該当項目	ご意見の概要	意見に対する考え方
1	アピールポイント	食はMICEを利用するビジネス客にも、IRや観光を利用するプライベート利用者にも欠かせないものであり、もっとアピールしたほうが良いと思います。日本らしさという点では立ち食いソバや立ち食い寿司が格好のコンテンツと考えます。安いものであってもまず食べさせて、食欲を満たして満足感を得るのは、簡単だと思います。	多様な来訪者に向けた飲食提供の重要性に十分配慮し、いただいたご意見も参考にしながら、今後、具体的に事業の準備を進めてまいります。
2	イメージパース	各街区が作る雰囲気や人のたたずまいに面白みを感じるわけですが、和洋折衷を標榜する本計画では大きな洋風の敷地に、和風のボックスがあるだけにすぎません。旅行をしているときに、角張ったビルの中に別の文化が詰め込まれているのを見てもまったく楽しくありません。もっと開けた場所で各々異なる背景を持った人が入り乱れるランダム性におもしろみを感じると思うのです。	各街区の賑わい創出は、IR区域の魅力を高める観点からも非常に重要であり、区域内に展開する人工地盤等のオープンスペースを有機的に活用し、いただいた意見も参考にしながら、今後、具体的に事業の準備を進めてまいります。
3	イメージパース	IR区域全体のイメージパースを見た際に、連続性や一体性をもった整備計画になっていないように感じます。設置要件となっている施設を“とりあえず”区域内に配置したような印象。区域内の土地利用方針を明確に示し、東洋文化と西洋文化の融合、真の和洋折衷とコンセプトにあるように、調和がとれた九州・長崎IR区域整備計画となることを期待します。	IR区域を4つのゾーン（ゲート、和、ウィーン街区、近未来の各ゾーン）に分けたうえで、周辺環境に調和した建築物の高さやボリューム構成の配置となるように配慮した計画案としており、いただいた意見も参考にしながら、今後、具体化に向け、取組を進めてまいります。
4	イメージパース	希望することは、パレスハウステンボスは、現状のまま残してほしいということです。画家が命を懸けて描いた天井壁画やパレスガーデンは一朝一夕でできるものではありません。骨董品の数々、ホテルヨーロッパも同様です。	パレスハウステンボスについては、その象徴性や重要性に十分配慮した適切な保存改修を行ったうえで、活用する計画としております。また、ホテルヨーロッパについても、改修して宿泊施設として活用する計画としております。
5	国際観光人材の育成	英語の得意な大学生が長崎のIRで、語学を活かして働けるように幅広い人材の育成をしてもらいたい。できれば、社会人もIR産業教育を受ければ、IRに必ず再就職できるような専門コースを開設していただきたい。（そうすれば、県外に出た長崎県出身者も、長崎に戻って働くことができます。）	区域整備計画案にも記載のとおり、県内大学と連携した九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会を組成するなどの取組を進めており、いただいたご意見も参考にしながら、今後、更なる具体化に向け取組を進めてまいります。

区分E：その他 4件

#	ご意見該当項目	ご意見の概要	意見に対する考え方
1	はじめに	現在のハウステンボス施設には日本中央競馬会(JRA)の場外発売所(WINS)が設置されており、IR計画実行後も所在し続けると理解しました。個人的にはカジノ+馬券発売所というのは大変魅力的であり、徒歩圏内で両立するという点ではほかの国内候補地にはない魅力だと感じています。すでに集客力のあるハウステンボスのWINSを活用した開発は追い風として働くと考えます。さらに公営ギャンブルの発売所を増やしてはどうでしょうか。	特定複合観光施設区域整備法に基づき、カジノ事業の有害な影響を排除する観点も踏まえ、事業者において適切な運営が行われるよう、準備を進めてまいります。
2	設置運営事業者予定者について	IRの実現は長崎県民として本当に有難い事業だと思います。決定した運営事業者予定者で大丈夫なのか心配しています。ネットの記事を見る限り資金調達が厳しいのではないのでしょうか。	事業者において、資金調達についての確実性を更に高めるための具体的な取組を区域整備計画案に記載したうえで、計画案に沿って、一層の財務の安定化を図ってまいります。
3	長崎県が抱える課題に対する具体的な貢献内容	来訪者数が最大で約840万人/年とあります。これは沖縄県全体(約1000万人/年)に匹敵する数字ですが、そもそも約840万人/年に見合う交通網がありますでしょうか。またMICEやIR施設のみで日本中から飛行機の往来がある沖縄県に匹敵するコンテンツたりえるのでしょうか。それよりもっと現実的な数字を示すことと、入手可能な交通網との関連を示すことが重要だと思います。	交通環境の改善については、長崎空港における国際航空路線の誘致・増便や、周辺道路の拡幅などのインフラ整備、JRやバスなどの公共交通機関の増便等に取り組んでおります。引き続き、IR施設の更なる魅力向上に向けて、各種施策を推進してまいります。
4	魅力増進施設について	日本にいて佐世保まで来る外国人がジャパンハウスを必要とするのでしょうか。むしろ私は自然の中に抱かれた“本物の”神社仏閣やお城、演芸や相撲を見てもらいたいです。長崎文化だけで十分じゃないでしょうか。またいわゆるオタク文化で推すのは一つの選択肢とも思いますが、少々子供じみているとか、嫌気を抱いている外国人も少なくないと思います。	ジャパンハウスでは、「日本の魅力を幅広く発信するプラットフォーム」をコンセプトとして、日本・九州の各地域における伝統・文化・食・芸術・自然等の特徴ある素材を活かし、先端技術を活用し国際的に最高水準のエンターテインメント性を有するコンテンツとして提供する計画となっており、引き続き検討を深めてまいります。